



～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

## 勝坂遺跡を巡る文化財探訪

～勝坂の古道を歩く～を実施して



勝坂歴史公園内に残る古道にて

平成 25 年 10 月 13 日、44 名の参加で、勝坂遺跡公園活用事業の一つとして実施しました。良い天気にも恵まれ、好評のうちに終了することが出来ました。

コースは、下溝駅を始点に鳩川・道保川の合流地点、大下坂、モナの丘、勝坂歴史公園、まがり坂、石楯尾神社、勝坂式土器発見地点、旧中村家住宅そして終点の勝坂遺跡公園まで約 4km を約 3 時間かけての探訪です。

まず、鳩川・道保川の合流と放水路の、川の大きさに比べて巨大なコンクリート構造物が目につきます。ここから大下坂までは、今も生活道路であり、道路際に古い石塔群もあって、昔の雰囲気を残しています。

モナの丘では、社長さんから新しい都市農業のあり方を目指している思いを伺いました。勝



大下坂下の石塔群

発行

平成 25 年 12 月 14 日

相模原市文化財調査・普及員  
広報グループ



文化庁指定  
文化財愛護  
シンボルマーク

両手のひらと日本  
建築伝統の組物を  
イメージしたもの

## 目次

勝坂遺跡を巡る文化財探訪

- ・大人気だった 石蒸し料理！
- ・史跡探訪二題
- ・開拓の歴史が見える 木もれびの森
- ・下溝八幡宮旧本殿基壇発掘調査
- ・文化財マップ紹介 東南班  
～行幸道路の市域を行く(その2)～
- ・文化財保護課からのお知らせ



殉職した士官学生の留魂碑

坂歴史公園の北側に、古道の切通しが残っているのも見逃せません。

勝坂歴史公園からは、座間丘陵の段丘の縁にある、けもの(?)道風の狭い山道です。キャンプ座間境の金網に沿って、まがり坂までの約 0.6km、殉職した旧陸軍士官学校生の留魂碑も見ながら一人ずつ慎重に歩きました。

まがり坂は、昔は段丘上の畑に行くための農道でしたが士官学校が出来て閉鎖されました。続いて、明治の頃は羽黒権現社と呼ばれていた石楯尾神社、大山柏が 1926 年に勝坂式土器を発見した地点、慶応年間に建てられたとされる旧中村家住宅そして最後に勝坂遺跡公園をそれぞれ案内して終わりました。

このコースは、いろいろな発見が出来る魅力に富んでおり、今後は、説明資料等も充実させて定番コースの一つとしたいと考えています。

(勝坂遺跡活用実行委員 茅野)

## 大人気だった 石蒸し料理！～旧石器ハテナ館まつり～

平成 25 年度旧石器ハテナ館まつりが、文化財調査・普及員 23 名の協力のもとに 8 月 31 日に行われました。夏休み最後の土曜日のこともあり、旧石器ハテナ館と砂広場、遺跡公園が大勢の親子連れでいっぱいになりました。また、クイズラリーでは早々に参加賞が足りなくなってしまい、各体験コーナーは順番待ちの行列ができるほどの賑わいでした。

なかでも石蒸し料理は、事前申し込みが始まってすぐに定員 30 名に達し、キャンセル待ちが出る大人気。数人で 1 つの朴葉包みを作る家族連れや、小学校低学年の児童や幼児と付添いの保護者、合わせて 60 名の参加者で実習・講習室が満員になりました。

牛肉としめじ・じゃがいもなどの野菜を朴葉で包んで、あらかじめ焼いておいた石の上に置



実習・講習室での調理の様子



外での石蒸し

き、芭蕉の葉をかぶせて石蒸しを始めてから、待つこと 30 分。出来上がった朴葉包みを開けて食べ始めると、「こんなにおいしいとは思わなかった」「朴葉の匂いが移って、すごくおいしいよ」「昔の人は、毎日こんなのを食べていたの?」「ハテナ館でやっている他の体験にも来てみたいな」などの声が聞こえてきました。

今回の旧石器ハテナ館まつりは、田名向原遺跡案内・普及事業実行委員会が初めて、準備段階から関わったものでした。実行委員会が発足してはや 6 年。毎週日曜日のガイドの他に、今後もさまざまな形で、田名向原遺跡をより多くの方に知っていただくための努力をしていきたいと思ひます。

(田名向原遺跡案内・普及事業実行委員 余語)

## 史跡探訪二題

この秋、西部班では地域の歴史に触れようと、ふたつの史跡などを訪ねました。

### 1 「橋本の文化財 おさんぼマップ」を歩いて

市役所まちづくりセンターごとに、「地域活性化事業」が進められています。この事業の一環として、センター区域内のマップをつくる動きが各区域でありますので、ご自分の住む区域で発刊されたマップを既にご覧になられた方もいるのではないのでしょうか。

上溝地区でも、地域を紹介するマップをつくらうという動きが湧き上がり、西部班の上溝在住者等がお手伝いをすることになり、作成の留意点等を探ろうと、橋本地区で作られた「橋本の文化財 おさんぼマップ」の宮上コースを歩いてみることにしました。

「原清の長屋門」や真言宗の名刹「蓮乗院」などはすぐにたどり着きましたが、路傍にひっそりと佇んでいる石仏等も多くあり、それぞれが地域の歴史を語る生き証人のように感じられ、改めて、足で訪ねることの大切さを感じたところです。

### 2 「甲州道中(街道)」を歩いて

星和美さんは、文化財調査・普及員第 5 期生で、旧藤野町で活動する唯一の普及員です。

その活動を応援しようと、甲州街道の宿場、関野宿から吉野宿までを歩く、「甲州道中を歩く」催しに参加しました。ところどころに残る甲州街道の道しるべなどに往時を偲んだり、地元の方々の素朴な味のある説明に聞き入ったり、活動の拠点、吉野宿本陣前の旅籠「ふじや」では、江戸時代にタイムスリップした雰囲気にも包まれたり。



現在の甲州街道(国道 20 号)



明治時代の甲州街道

吉野宿は、ちょうど江戸と甲府の間にある宿場で、往時は信州・高遠藩や甲府勤番などの参勤交代の常宿として、また、旅人たちの旅籠としても栄えたところです。

旧藤野町には、古い歴史を持つ神社や寺院、文化財、芸術作品の展示など、旧相模原市内では、なかなか目にすることのできないものも数多くあり、文化財の保存、地域の活性化等に奮闘する星さん達の活動を、西部班はこれからも支援していきたいと考えています。

(西部班 永山)

## 開拓の歴史が見える 木もれびの森

市内南区大沼から大野台に広がる森は、面積が73ha（東京ドームの約15個分）、樹木は約5万本、平地に残された貴重な森林で平成12年に「木もれびの森」と命名されました。



この森が江戸時代の中期、開拓に入った人々によって造られた森であることはご存知でしょうか。相模原台地の土壌は火山灰が混じり乾燥し、農産物の収量がとても悪く農間余業として炭焼きと養蚕が行われていました。

その苦しさの証しとして旧家には借金証文や口減らしの文書が残されています。

この窮乏を克服するためそれまで余業だった炭焼きを増やし、開墾地に薪炭材のコナラ、クヌギが植林されてきました。

旧家の文書を見ると、天保11年（1840）4貫目（約15kg）俵で221俵が生産され川崎方面に馬車で運ばれています。大沼の炭は、木質が固

いため火持ちの良い炭が出来て評判になり良く売れたそうです。原木の切り出しや運搬など小作人をはじめ多くの人々がこれにかかわり、炭焼きに生業の転換が進められて行った様子がかがわれます。

明治のはじめ土窯の数が、大沼の農家に新旧合わせて50基を数える記録があります。

土窯は20人位仲間が集まり造られますが、この時の作業唄が「土窯搗き唄」（市登録無形民俗文化財）で、保存会により唄い継がれています。



原木の伐採がされなくなってからは、先人が残してくれた大切な自然遺産として地域の人々によって保守保全がなされています。森は、「かながわの美林50選」に選ばれています。

ぜひ、一度緑豊かな森を訪れて下さい。

横浜線古淵駅より徒歩15分、駅の改札口前に案内板あり

（東部班 太田）

## 下溝八幡宮日本殿基壇発掘調査

麻溝地区下溝に、旧下溝村の鎮守「下溝八幡宮」（JR下溝駅より徒歩約10分）があります。その八幡宮が平成24年4月4日白昼、不審火により全焼してしまいました。

新たに社殿を建て直すことになり、残された基壇（社殿の基礎部分）の調査が文化財保護課の手で行われ、私も参加させていただきました。しかし、この時点では特に大きな発見はありませんでした。

平成25年9月下旬頃、火災で劣化した基壇の取り壊しが始まり、気になって見に行ったところ、石積みの土留めのような形で6本の石柱等が出てきました。あわてて文化財保護課へ様子を連絡し、改めて10月2日、3日の両日「立合調査」が行われました。

出土した石柱の拓本を取り、判読を試みまし



基壇下調査の様子

た。表面はだいぶ劣化していましたが、4本は、刻まれた文字から壊れた鳥居か燈籠の石柱と思われました。残り2本は庚申信仰にかかわるもので、「享保元丙申歳 奉造立庚申供養 下溝村 井上氏 十月吉日 同行十人」、「為 庚申供養 奉納御 寶 前燈臺 施主八人 末八月十六日」と不鮮明ながらも読み取れました。

昔「大光院」という廃寺になった別当寺があったところですから、庚申関係の石柱（庚申塔か）はその関係で残されたのものかもしれません。

旧市域では古い時期の庚申塔です。何らかの形で残せるように望んでいます。

（南部班 五十嵐）



発見された6本の石柱

## 行幸道路（県道51）の市域を行く（その2）



前回に引き続き、行幸道路の市域にある文化財をご紹介します。

**陸軍通信学校将校集会所、フランス庭園：**市登録文化財・名勝で相模女子大学構内にあり、給水塔等は軍の名残です。地図の太線内は陸軍通信学校跡で今は幼稚園から大学までの文教地区です。

**府中道標：**谷口新開はこの道沿いに開かれました。開拓者の子孫・渋谷家の庭に往時の井戸が現存します。

**米軍住宅：**篠原新開地を収用した陸軍第一連隊跡と隣接地を併せ 60ha、本道（南台）からも見えます。

**中和田新開開発記念碑：**明治8年綾瀬・蓼川の平出富士太郎翁が取得した原野20数町歩を明治13年鈴木孫七翁家が開墾、次いで7戸、本碑建立の大正8年には14戸が開拓移住されました。

**道祖神：**昭和3年上鶴間講中の建立です。

以上、「開拓 軍地 ビル化」と激変の佇まいです。行程は約6kmで半日コースです。交通が激しいので注意してください。

なお、はペアナード（スカイビル、周辺の愛称）竣工整備後、\*に移設されました。（東南班 松本）

### 文化財保護課からのお知らせ

#### ・第39回相模原市文化財展

市内で活動するグループが、日ごろの研究成果を展示・発表します！  
平成25年にオープンしたばかりのユニコムプラザさがみはらで開催します。  
日時：平成26年2月14日（金）～2月16日（日）  
（発表は16日午前10時30分～午後0時30分）  
会場：ユニコムプラザさがみはら（bono 相模大野内）

#### ・第34回相模原市民俗芸能大会

市内に伝わる民俗芸能や仕事唄などが一堂に会し、公演を行います。

普段は各地の祭礼や地元のお祭りでのみ披露される芸能が、あじさい会館で楽しめます。

日時：平成26年3月2日（日）午後1時～4時

場所：あじさい会館ホール



\*文化財調査・普及員の活動や、通信紙「さねさし」のバックナンバーは市のホームページから閲覧できます。

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話042-769-8371